

被爆した南方特別留学生への
名誉博士号授与の記録
広島大学



目次

写真 ①アブドゥル・ラザク氏への授与式 ②ハッサン・ラハヤ氏への授与式

③ペンギラン・ユソフ氏への授与式 ④興南寮跡碑の写真 ⑤留学当時の写真

「被爆した南方特別留学生への名誉博士号授与の記録」の発刊に寄せて

……広島大学理事・副学長 岡本 哲治…… 1

I. 広島大学名誉博士号授与の記録 …………… 3

一、授与に至る経緯と教育研究評議会での決定 …………… 7

二、アブドゥル・ラザク氏への授与式 …………… 13

1 アブドゥル・ラザク氏への広島大学名誉博士号授与式

名誉博士候補者調査 業績 授与式プログラム

2 岡本 哲治 広島大学理事・副学長からの挨拶

3 アブドゥル・ラザク氏からの挨拶

4 松浦 博司 在マレーシア日本国大使館公使からの挨拶

5 ズルキフリ・アブドゥル・ラザク氏からの挨拶

三、ハッサン・ラハヤ氏への授与式	29
1 ハッサン・ラハヤ氏への広島大学名誉博士号授与式 名誉博士候補者調書 業績 授与式プログラム	
2 上真一 広島大学理事・副学長からの挨拶	
3 ハッサン・ラハヤ氏からの挨拶	
4 オロアン・シアハアン ダルマプルサダ大学長からの挨拶	
5 鹿取 克章 駐インドネシア日本国大使からの挨拶	
四、ペンギラン・ユソフ氏への授与式	47
1 ペンギラン・ユソフ氏への広島大学名誉博士号授与式 名誉博士候補者調書 業績 授与式プログラム	
2 岡本 哲治 広島大学理事・副学長からの挨拶	
3 ペンギラン・ユソフ氏からの挨拶（抜粋）	
4 清水 生介 駐ブルネイ日本国臨時代理大使からの挨拶	
II. 関係者からの寄稿	59
1 留学生と野宿の一週間	栗原 明子 61
2 アブドウル・ラザク先生 「言葉」でマレーシアと日本をつなぐこと	兵庫県立大学教授 宇高 雄志 72
3 興南寮跡碑の思い出	花岡 正雄 79

4	南方特別留学生と国際学友会	前財団法人国際学友会	理事長	佐藤	次郎	83
III	南方特別留学生の広島での被爆					93
IV	広島 of 南方特別留学生					117



アブドゥル・ラザク氏への名誉博士号授与式（於、クアラルンプール）



岡本 哲治 理事・副学長からアブドゥル・ラザク氏への名誉博士号の授与



ハッサン・ラハヤ氏への名誉博士号授与式（於、ジャカルタ）



上 真一 理事・副学長からハッサン・ラハヤ氏への名誉博士号の授与



ペンギラン・ユソフ氏への名誉博士号授与式（於、ブルネイ）



ペンギラン・ユソフ氏からの挨拶



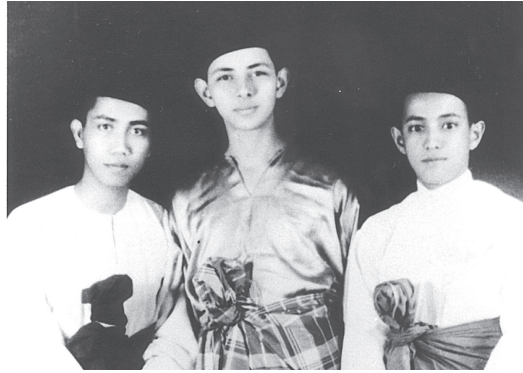
広島市の元安川のほとりに建つ「興南寮跡」碑

碑文には「この地は、かつて興南寮であった。興南寮は、1944年～1955（昭和19～20）年にかけて、広島大の前身である広島文理大や広島高等師範学校に在籍した東南アジアの南方特別留學生が住んでいた宿舎であったが、1945（昭和20）年の8月6日、原子爆弾のせん光を浴び焼失した」とある。



広島で学んだ南方特別留學生の50年ぶりの同窓会

かつての宿舎であった興南寮の碑の前での記念撮影。左から当時から親交があり同窓会を提案した花岡俊男氏、アブドゥル・ラザク氏、ベンギラン・ユソフ氏、ハッサン・ラハヤ氏、ヴェリヒリオ・デ・ロス・サントス氏、ハリム・アブバカル氏、アディル・サガラ氏。1995年8月6日撮影。（提供：花岡 正雄氏）



左からペンギラン・ユソフ氏、サイド・オマール氏、アブドゥル・ラザク氏
(提供：栗原 明子氏)



ハッサン・ラハヤ氏
(提供：栗原 明子氏)



当時の興南寮の玄関前で撮影されたビルマ（現ミャンマー）人留学生の写真。玄関上の看板には「広島文理科大学 興南寮」とある。
(提供：Lin Win Tun 氏)

「被爆した南方特別留学生への名誉博士号授与の記録」の発刊に寄せて

この度「被爆した南方特別留学生への名誉博士号授与の記録」を発刊することになりました。二〇一三年、広島大学では前身校である広島文理科大学に留学中に被爆して、修了がかなわなかった三人の南方特別留学生に対して名誉博士号を授与しました。

原爆投下時、広島文理科大学には九人の南方特別留学生が在学していましたが、そのうちの七人が奇跡的に難を逃れました。彼らは、自らが被爆しながらも広島市民の救護に尽力されました。戦後の混乱のなかを母国に帰国された後、母国で指導的役割を果たし、国の発展や日本との友好関係の強化に努めるとともに自身の被爆体験や広島での経験を母国で伝え平和活動の推進にも尽力されました。このことは、広島大学の理念の一つ「平和を希求する精神」を具現化するものであり、これらの功績を讃えて広島大学から名誉博士号を授与しました。

彼らは勉学を志して日本に留学し、人格形成にとって重要な時期を戦時下の広島で過ごしましたが、学業半ばして帰国せざるを得なくなりました。どんなに無念であったかと思えます。そのような意味で、広島大学で学んでいた証として名誉博士号を授与することができたことは誠に意義深いことだと思っています。

今年、広島は被爆七〇年目を迎えます。残念ながら、授与数ヶ月後アブドゥル・ラザクさんが、昨年末にはハッ

サン・ラハヤさんが逝去されましたが、このたびの名誉博士号授与を記録として残し、南方特別留学生が広島で抱いた勉学への志や平和への思いを次の世代に伝えていくことは大変重要であるとの思いから、ここに「被爆した南方特別留学生への名誉博士号授与の記録」を発刊することとしました。

本書により、次の世代を担う若い方々が平和について思いを巡らすきっかけとなれば幸いです。

二〇一五年三月

広島大学理事・副学長 岡 本 哲 治